The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Prevalence of human papillomavirus in oral gargles and tonsillar washings
Author(s)	曺, 弘規
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/81869
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論　文　内　容　の　要　旨
Synopsis of Thesis

氏　名 Name	曺　弘規
論文題名 Title	Prevalence of human papillomavirus in oral gargles and tonsillar washings （うがいと扁桃洗浄によるHPVの感染検出について）

論文内容の要旨

〔目　的(Purpose)〕

・サンプル採取方法やHPV検出法の違いによるHPV検出率を検討し、標準的な咽頭HPV検出方法を検討すること

・日本における咽頭HPV感染率を明らかにすること

〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕

背景：中咽頭へのHuman papillomavirus（HPV）感染は、同部の癌化に関与しているが、それを評価する標準的なサンプル採取法やHPV検出法は存在しない。また、日本における咽頭HPV感染率も明らかではない。

方法：435人の健常者（医療関係者）を対象とした。同一対象者から、うがい液とそれに引き続いて扁桃を洗浄したうがい液の2種類を採取し、それらをnested PCRとGENOSEARCH HPV31の2種類の方法でHPV検出を行い、うがい液の採取方法や検出方法に違いによるHPV検出の違いを比較した。さらに、アンケート調査を行い性行動と咽頭HPV感染の相関を検討した。

結果：うがい検体でHPV陽性であった被験者の多くは、扁桃洗浄うがい検体でもHPV陽性であった（nested PCR:11/17人(64.7%)，GENOSEARCH HPV31:12/17人(70.6%)）。うがい単独よりもうがいの後に扁桃洗浄を行ったうがいの方が、HPV検出の割合が高かったものの有意差を認めなかった（nested PCR，4.8% vs. 3.9%，P = 0.46；GENOSEARCH HPV31，5.3%vs. 3.9%，P = 0.33）。nested PCRとGENOSEARCH HPV31のHPV検出の一致率は98.6%であり、HPV陽性者の一致率は76.0%であった。被験者全体の咽頭HPV感染率は5.7%であった。高リスクHPVの感染割合が多く感染率は4.4%であった。genotype別ではHPV16が最も多く、HPV16の感染率は1.4%であった。アンケート調査との相関では、男性は有意に女性よりも咽頭HPV感染率が高く(8.3% vs. 2.6%，P = 0.02)、生涯性交渉人数や生涯口腔性交人数と咽頭HPV感染は有意に正の相関を示した(P < 0.001)。

〔総　括(Conclusion)〕

うがい液は中咽頭のHPV検出の標準的なサンプル採取法になりうる。また、GENOSEARCH　HPV31はHPV検出法の選択肢となりうる。本邦での咽頭HPV感染率は5.7%であり、男性と性行動が感染に相関している。

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）　曺　弘規

		（職）	氏　　名
論文審査担当者	主　査	大阪大学教授	猪原秀典
	副　査	大阪大学教授	野々村祝夫
	副　査	大阪大学教授	久保眞貴

論文審査の結果の要旨

【背景】中咽頭へのHuman papillomavirus（HPV）感染は、同部の癌化に関与しているが、それを評価する標準的なサンプル採取法やHPV検出法は存在しない。また、日本における咽頭HPV感染率も明らかではない。
【目的】サンプル採取方法やHPV検出法によるHPV検出率を検討し、標準的な咽頭HPV検出方法を検討した。
【対象と方法】435人の健常者を対象とした。同一対象者から、うがい液とそれに引き続いて扁桃を洗浄したうがい液の2種類を採取し、それらをnested PCRとGENOSEARCH HPV31の2種類の方法でHPV検出率を比較した。さらに、アンケート調査を行い性行動と咽頭HPV感染の相関を検討した。
【結果】うがい検体でHPV陽性であった被験者の多くは、扁桃洗浄うがい検体でもHPV陽性であった（nested PCR:11/17人(64.7%)，GENOSEARCH HPV31:12/17人(70.6%)）。うがい単独よりもうがいの後に扁桃洗浄を行ったうがいの方が、HPV検出の割合が高かったものの有意差を認めなかった（nested PCR，4.8% vs. 3.9%，P = 0.46；GENOSEARCH HPV31，5.3%vs. 3.9%，P = 0.33）。nested PCRとGENOSEARCH HPV31のHPV検出の一致率は98.6%であり、HPV陽性者の一致率は76.0%であった。アンケート調査との相関では、男性は有意に女性よりも咽頭HPV感染率が高く(8.3% vs. 2.6%，P = 0.02)、生涯性交渉人数と咽頭HPV感染は正の相関を示した(P < 0.001)。
【結論】うがい液は中咽頭のHPV検出の標準的なサンプル採取法になりうる。また、GENOSEARCH HPV31はHPV検出法の選択肢となりうる。

以上の内容は学位に値するものと認める。